茨木市の指定文化財

茨木市指定文化財（有形文化財　考古資料）

小銅鐸（しょうどうたく）　附（つけたし）　舌（ぜつ）

◇所　在　地　**茨木市東奈良三丁目12番18号（茨木市立文化財資料館）**
◇指 定 番 号　**考古資料第8号**
◇指定年月日　**平成17年5月1日**

東奈良遺跡で、弥生時代中期後半の土器とともに出土しました。
小銅鐸の下辺には、いびつな形状で不整形の穴があいていますが、いずれも当初からと考えられます。また、表面の摩滅が著しいですが、文様を確認することができます。
Ａ面には上段が綾杉文、下段には鋸歯文がみとめら、Ｂ面にも同様の横帯がありますが、上段が円形文を連続させる特異な文様に変化しています。また、両面とも最下段には波状文が施されています。鐸身の上面（舞）はでこぼこしており、また鐸身の文様がシャープでなく、石型による製作が推測できます。
鈕は断面がフットボール形で、これを正面から見るとかまぼこ形の形状をとっており、半円形の形状となる銅鐸とは大きく異なっています。
舌は一方の端部を環状に作り、他端を厚くする形状をとっています。
鐸身の内面下端付近には突帯が廻っており、舌と触れあったと考えられる使用痕がみられ、実際に鳴らして使っていたことをうかがわせます。
正面観や同じ材質でできた舌を伴う点は、朝鮮式小銅鐸との共通性がみられます。

<u>寸法・重量</u>

本体：全高　１４．４㎝　　最大幅　９．５㎝　重さ　７５０ｇ
舌：長さ　８．３㎝　　重さ　５０ｇ